1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0272501503		
法人名	株式会社　東北産業		
事業所名	グループホームよこはま荘		
所在地	〒039-4142　上北郡横浜町字上イタヤノ木438-5		
自己評価作成日	令和2年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会
所在地	〒030-0822　青森県青森市中央3丁目20番30号　県民福祉プラザ3階
訪問調査日	令和2年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

四方を海や山に囲まれ、自然豊かな環境に恵まれた場所にあり、施設からは季節が感じられる花や木々の景色がいつでも見ることができる。また地域に根差した施設づくりを念頭に毎年なごやかカフェの開催や、交流運動会、夏祭りなど老人クラブや各団体の方々とも連携を密にしより過ごしやすい施設になるよう取り組んでいましたが今年は残念ながら、コロナ感染防止のため外部との接触は自粛となっている。その分施設内でミニ運動会を開催するなどユニット同士での交流を図っています。入居者には受容、傾聴、支援の基本を忘れることなく、施設の理念を毎朝復唱ししっかり心に刻み、安心して住み慣れた地域で生活できるよう努力していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者と一緒に作成した理念を掲げ、町や地域の方との交流を活発に行い、つながりが継続できている。今年は、コロナ禍での制限が多く、外出等の機会が少なくなっているが、室内で楽しく過ごすことができるよう、団子作りや作業療法を活発に行い工夫している。看取りに対しては、職員の不安を取り除きながら、チーム一丸となり取り組んでいる。職員が定着していることも強みだと思われる。ハード面では、リビングの窓からスロープですぐに外に出られるようになっており、災害時の避難はとてもしやすい環境である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やホールに理念を掲示し、朝の申し送りの際、職員間で理念を唱和し共有を図っている	利用者と一緒に作成した理念を、玄関やユニット内に掲示し、毎日の朝礼で唱和しており、毎月の会議で確認し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ禍の影響にて交流は図れてない	毎年、婦人会や老人クラブの訪問、町民運動会への参加、町内への外出等、地域とのつながりがある。コロナ禍の影響で交流は少なくなっているが、推進員から野菜の差入れ等、つながりを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に認知症カフェを実地していたが、コロナ渦にて自粛している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ケ月に1回運営推進会議を開催していたが、コロナ禍の為、利用者様や職員の状況等、資料にて報告している	コロナ禍の影響により2月以降は、書面での報告となっており、定期的に報告されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症地域ケア会議に参加し、他事業所との意見交換を図っている。互いの取り組みについての話し合いも行っている	町役場の地域包括支援センターが中心となり、他事業所も参加し多職種協働研修会を行い、事業所の取り組み等が2ヶ月に1回話し合われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や会議等を通して身体拘束の内容について理解している。身体拘束は全体に行れないことを念頭に日々のケアを行っている。身体拘束マニュアルの整備をし、いつでも閲覧出来るようにしている	マニュアルを作成し、3ヶ月に1回研修を行っている。毎月の会議で、身体拘束を行わないことが話し合われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	3か月に一度アンケート実地し、又、高齢者虐待防止について研修や意見交換も行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての資料を準備しており閲覧出来るようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設管理者が家族に対し、理解して頂けるように説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	正面玄関に意見箱を設置している。面会時には状況報告を行い、意見や要望が話しやすい環境を整えている	玄関に意見箱が設置されている。毎月、担当職員が、利用者の様子等を手紙へ書き送付している。差入れ等で家族が来荘した時の状態報告やその都度の電話連絡にて話がしやすい環境になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の場で福祉部会議の報告や会社の運営面、方針等報告している。推進会議の報告や推進委員さんの意見等の報告も行われている	月１回の全体会議や日々の申し送りにて、職員の意見を吸い上げている。その都度管理者や職員が相談し、一方通行にならないように話し合いが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回（8月、12月）に自己評価を行い、賞与に反映出来るようになっているが給与の水準は低い。月に1回は有給休暇の取得を推進している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、研修事態が延期や中止となっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回、他職種協働の研修会の開催を行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族の協力を得ながら利用者様が不安なく生活が送れるよう対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始段階では家族側の心配も多く、必要な情報は随時、電話や手紙を通し報告している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族より利用者様の性格や生活歴、こだわり等を聞き取りし、出来る事、出来ない事を見極めその人らしさを重視したサービスを心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「見てあげている」という意識を持たず「共に生活している、生活の一部」で有ると認識し対応している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力や理解がなければ支援が進まない事を伝えており、本人と家族の絆を断ち切らないよう共に支えていく関係を構築している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町のイベントや行事への参加を行っていたが、コロナ禍にて外出等、自粛している	コロナ禍にて外出等は控えているが、例年は町のイベントで親戚や知人と会ったり、町外の利用者は地元にドライブに行く等、地域や馴染みの関係が継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団活動で含め、共に過ごせる場、関わりの場を考え対応している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も気軽に相談出来るように家族に働きかけている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通して思いや希望を把握し、強制する事無く、日々の生活が送れるように取り組んでいる	日常のコミュニケーションを通し、集団の方が良い方、個別の方が良い方等、一人ひとりに合わせて対応している。意思疎通の困難な方もいるが、話すことができなくても表情等を職員が読み取り、思いの把握をするようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より入所時に生活歴や生活環境を聞き取り日々の生活に活かしている。又、情報提供書も活用している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や経過記録等を活用し、状況の把握に努めている。ユニット会議の開催にて共有し、個別の対応が出来るよう取り組んでいる		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化や更新の時期に評価し、カンファレンスの開催、チームにて話し合いを行っている。又、家族からも情報を得ている	6ヶ月に1回のカンファレンス、月１回の会議の中で、各担当から状態を聞き職員みんなで話し合い、対応を確認している。必要があればプラン変更等を行い改善につながっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や個別の記録を活用し、情報の共有を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態に応じ、いつでも宿泊できる体制を整えている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で学生ボランティア等中止している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診にて適切な医療が受けられている	クリニックの往診は月に1回あり、訪問看護の医療管理が定期的に行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護師が体調管理に来ており、アドバイス等も受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域医療連携室を利用し、入院中の状態の把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取組んでいる	終末期の在り方について家族とかかりつけ医を交え話し合いの場を持ち方針を共有し支援を行っている	医師・家族との契約にて看取りを行っている。看取り研修や、看取り対象者がある時は、振り返りを行いながら、職員の不安なことを一つずつ話し合いながら看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は2年に1回救急救命講習を受講し緊急時の対応が出来るよう取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時マニュアルを作成し職員に周知している。避難訓練を年2回行っている	毎年、6月と10月に訓練を実施していたが、コロナ禍のため6月は実施できていない。11月は、町主催で通報訓練、感染症の災害訓練を予定している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	充分に配慮し対応を図ってはいるが中には出来ていない職員もいる	排泄時の声掛けは、ジェスチャーや耳元で伝える等配慮されている。時々できていない職員がいるとのことだが、その場合は、その都度指摘しあえるよう働きかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で表現が出来ない場合でも表情や反応を読み取り自己決定する場面を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムやペースを把握しており個々に寄り添った支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の衣類は2着を提示し選んでもらい入浴後には爪切りを行っている。2か月に1回馴染みの床屋が来荘している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作り（団子作りやホットケーキ作り）お手伝いが行える利用者様と行っている	食事をつくる専門の職員を配置し、おやつ作りを利用者と一緒に行い、楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カーデックスを活用し摂取量の把握し、食事形態は普通食からミキサー食まで対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、又は口腔ガーゼを使用し清潔保持を図っている。歯磨きコップは毎日消毒している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表の活用と個別の排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行い、汚染の軽減を図っている。	自分で訴える方は少ないが、個々の排泄パターンを把握し、行動を見てタイミング良く誘導している。基本的に立位が可能であれば、トイレに行き自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	排泄チェック表の活用又、自然排便を促せるよう1日1回乳製品を摂取している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回以上の入浴を行うようにしている。基本的には午前中に入浴を行っているが希望に応じて午後も入浴出来るようにしている。入浴拒否の利用者に対し、時間を置き対応している	週2回以上入浴できるよう計画している。入浴拒否のある方には、対応する職員やタイミングを変えて対応している。入浴は1対1で接する場であるため、コミュニケーションを楽しむことができるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の管理や寝具等、使い慣れた物を持参して頂き落ち着いて眠れるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を一覧にて解りやすいようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に応じた軽作業の提供や音楽体操、趣味を活かした支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出支援は控えているが、マンツーマンにて散歩は行っている	コロナ禍で外出は控えているが、通院や理容院は家族と一緒に出掛けている方もいる。例年であれば、2ヶ月に1回くらいのペースで道の駅に外食に行く等楽しんでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出支援の際は個人が好きな物を購入していたが、現在はコロナ渦にて外出を控えている。基本的には家族や施設で管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙が届いた際は代読したり、希望があれば電話で話しをしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎にホールに装飾を行っている。掲示物は利用者様との合同作業による物で有る。又、写真も掲示している	季節を感じられる装飾を作成し、掲示されている。共有スペースでは、一人一人に合わせて好きな歌手の歌をかけたり、楽しむ工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファーやTVを設置しており、自由に過ごしてもらえるよう環境を整備している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置等も本人と相談し設置している。又、入所時には使い慣れた物品を用意してもらい安心して生活して頂けるよう努めている	環境に慣れ、安心して生活してもらえるようになじみのある家具や茶碗を持参するよう声掛けしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が解るように展示し、ホール内には手すりを設置している。又、利用者様の状態に合わせ居室場所を決めている		